

令和元年8月2日

学校関係者評価委員会報告書

学校法人 札幌青葉学園 北海道看護専門学校
学校関係者評価委員会・自己点検評価委員会

学校法人 札幌青葉学園 北海道看護専門学校 学校関係者評価委員会は、自己点検評価委員会において作成された平成30年度自己点検評価報告書に基づき学校関係者評価を実施したので、以下の通り報告いたします。

記

1. 日 時：令和元年7月11日（木） 午後2時55分～午後4時15分

2. 場 所：北海道看護専門学校 1階会議室

3. 学校関係者評価委員会委員（敬称略）

<委員長>

白川 弘子 社会医療法人北海道恵愛会 札幌南一条病院 看護部長

<委員長>

草薙 晴美 社会医療法人鳩仁会 札幌中央病院 看護部長

樋爪 昌之 樋爪昌之公認会計士事務所 所長

山川 巳穂 医療法人新さっぽろ脳神経外科病院 看護師 ※当日欠席

4. 事務局（自己点検評価委員会委員）

丸山 知子 北海道看護専門学校 校長

小松 恵治 同上 統括長

鈴木 君子 同上 教務部長

川崎 恵子 同上 教務主任

後藤 まふみ 同上 事務長

5. 主たる議事次第

1) 委員長の選任

2) 平成30年度自己点検評価報告書について

3) 学校関係者評価

6. 学校関係者評価委員による評価結果

項目	評 価 等
<p>基準 1 教育理念・目的 ・ 育成人材像</p>	<p>○教育理念・目的・育成人材像については見直しが行われ、よりわかりやすいものとなった。専門分野の特性が明確であり、社会変化に対応した内容であり、また看護専門職者としての目指すあり方の指標ともなっており大変良い。</p> <p>○教育理念・目的・目標は、学生便覧、シラバス、学校案内等に印刷され、またホームページでも公開されるなど保護者等への周知の努力がなされているが、学生及び教職員間でより浸透させるためにもこれらを学校内に掲示するのが望ましい。</p> <p>○以前の教育理念には「国際的視野」という文言があったが、今回の見直しでこの文言は無くなった、理念として掲げるべきかどうかはともかく、国際性の観点は以前にもまして重要になっていると考えるので、この部分にも力を入れてほしい。</p> <p>○学校の将来構想については、文書化する前に「将来構想」の定義を明確にして議論を進める必要がある。</p> <p>○学校の将来あるべき姿を見据えた構想は、どのような看護師を育成していくかの視点が欠かせない。人口減少と社会保障財源問題等によりますます在宅支援の重要性が高まっている等、社会の変化に柔軟に対応し社会・地域にどのように貢献するかを考えられる人材育成の視点も重要と考える。</p>
<p>基準 2 学校運営</p>	<p>○策定されている運営方針、事業計画を、教職員が理解・共有し、有効に組織的な運営がなされることを期待する。</p> <p>○情報公開については、ホームページ上での公開が欠かせない、財務情報を含め更なる充実を期待する。</p> <p>○情報システム化による業務の効率化については、現場の負担軽減に資する時代を先読みした商品・システム・ソフトが開発されていると思う。教務事務に関するものは、それほど大掛かりなシステムが必要とは思わないと思われるので積極的に導入を図り、業務の一層の効率化を進める必要がある。</p>
<p>基準 3 教育活動</p>	<p>○カリキュラムは、その体系にあわせて具体的に評価を含めて纏められており、臨地実習を受ける側としては大変参考になっている。</p> <p>○教育方法の工夫・開発については、前年度の評価を基に継続的に実施する必要がある。教育課程編成委員会が十分に機能・運営され、より実践的な職業教育が実施されることを期待する。</p> <p>○外部評価の結果を教職員間で共有し、改善が必要なものがあればその状況をモニタリングする仕組みも必要である。</p> <p>○国家試験の合格率が全国平均よりも毎年高いのは、学校の支援・指導体制が適切であることの結果であり今後も継続される事を期待する。</p> <p>○教員のレベルアップは非常に重要であり、そのための研修等への参加は、時間の確保が難しい状況も理解できるが、何とか工夫して計画的に実施する必要がある。</p>

項目	評価等
<p>基準4 学修成果</p>	<p>○開校以来就職率100%は素晴らしい結果だと感じる。今後も是非継続できるように努力してほしい。</p> <p>○国家試験合格率も、毎年高い合格率となっていることから、教員がかなり努力していると感じる。既卒の学生のサポートも実施し素晴らしい。</p> <p>○学生の退学率の低減については、他の学問分野と異なり実習があることから、座学と現場の違いについていけなくなる学生が一定数生ずるのはやむを得ないとする。学生にとって進路変更もある意味必要な選択肢である。</p> <p>○卒業生の就職先での評価は、学校での指導のヒントになる情報が多いと思う。また、先輩が活躍している様子というのは学校を選択する際にも非常に重要な情報と考える。カリキュラムの充実、学生募集の観点から是非、評価の把握の仕組みづくりを行い、情報を積極的に活用すべきと考える。</p> <p>○卒業生の就職先での評価の把握の方法については、現実的に教員の時間的な制約等を勘案すると、実習先で学生が就職した施設から情報収集することで良いと思う。その情報の分析を通し学校における教育活動の改善に活用すべきと考える。</p>
<p>基準5 学生支援</p>	<p>○学生相談については、担任に相談しにくいことも考えられるため、他の相談体制も必要と考える。</p> <p>○学生に対する経済的支援について、各種の奨学金制度や給付金制度の案内や認定校として支援していることは評価できる。さらに学校独自の奨学金制度が整備され今年度から実施されることは、学生にとって朗報となり大変良いと思う。</p> <p>○課外活動に対する支援について、課外活動が学友会等による自主的な活動により行われることを期待するが、一方で日々の学習等により物理的に課外活動が無理であれば、支援体制は行わないとはっきり決めるのもあり得ると思う。</p> <p>○保護者との連携については、良く連携していると評価できる。 一方で、高校を卒業していることから保護者からは自立すべきと思うので、必要最低限で良いのではないかと考える。</p> <p>○卒業生への支援について、卒業生がどのような支援を望んでいるのか良くわからないが、それほど多くないのであれば、現状の個別対応で十分だと考える。</p> <p>○社会人のニーズを踏まえた教育環境の整備のひとつとして、社会人特に子供を持つ学生に対しては、臨地実習先の決定に際し通学時間の配慮も検討してあげてほしい。</p>

項目	評 価 等
基準 6 教育環境	<p>○校舎は立地もよく開放感があり綺麗で、気持ちよく学べる環境が整っていると感じる。</p> <p>○図書の整備や教材教具の更新・補充については、学校の予算によらず、広く寄付を受けることも検討してみてもどうか。</p> <p>○必要な情報は、情報ネットワークから得られる時代のため、Wi-Fi 環境の整備も必要と思う。</p> <p>○臨地実習施設が多い事から、学習内容の差異を最小限に抑えるよう教員間の情報共有・連携には十分留意してほしい。</p> <p>○防災体制に関しては、本年度から安否情報システムを導入することなので、課題の一つは解決の方向と思う。防災用品の備蓄については、是非予算化し実行してほしい。</p>
基準 7 学生募集	<p>○学生募集活動は適正に行われていると評価できる。</p> <p>○高等学校に対する情報提供の一つとして、学生に時間的な余裕がないかもしれないが、OB・OG訪問のような手法を検討してみたはどうか、高等学校にとって卒業生の生の声が聴けるのは一番の情報となると思う。</p> <p>○学納金は、他校と比較して高いと思われるが、立地などを考えると妥当な額だと考える。しかしながら学生にとっては負担が大きいのも事実であると思う。</p>
基準 8 財務	<p>○財務に関する評価 4 項目についての自己点検評価結果については、教職員に対しても財務に関する情報が開示されていない中での結果のため、評価の意味がないと考える。近々に法人全体の関連情報が開示予定とのことだが、法人全体の数字だけでなく、学校ごとの開示が今後は必要になると思う。</p>
基準 9 法令等の遵守	<p>○個人情報の保護に関する規程が無いのは、問題があると言わざるを得ない。早急に規程を作成し、教職員全員で内容を理解し遵守していく必要がある。</p>
基準 10 社会貢献 ・地域貢献	<p>○学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献については、有効な活用策が見いだせないのであれば、無理に行う必要はないと考える。</p> <p>○ボランティア活動は、地域の医療機関と連携して出来ることも多々あると思われる。学生がボランティア活動を行う契機となるような事案を立案・企画し情報の提供と合わせて機会の提供をしていくことも重要だと思う。</p> <p>○地域に対する公開講座等の受託については、安全面の問題もあり積極的に取り組む必要はないと考える。</p>